

広島で平和を考える	清水 文裕	2年	前期	長束
Education of Peace in Hiroshima		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

- (a) 平和を考えることは命の大切さを見詰め直すことです。科目名に副題を付けるなら「命一人間が人間らしく生きるために」。原爆は人間と都市にどのようなことをもたらしたのかを科学的に検証します。被爆地で学ぶ意義を認識し、地域への貢献力を磨いてください。
- (b) 核分裂の発見に伴い国際社会はどのように変化したのでしょうか。冷戦中と冷戦後の世界、原子力発電の課題、海外の原爆観など、多角的な学びによって、考えを深めてください。核時代をどう生きるかを一緒に考えましょう。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	きのこ雲の下で I 初期の手記を読んで考える	1949年に書かれた手記「原爆以後」と、1950年執筆の体験記「爆心に生き残る」の2編を読み、きのこ雲の下でどんなことがあったのかを考える。	被爆地で平和について学ぶ意義を確認する。初期の手記の特徴をつかむ。	資料を配布
2	きのこ雲の下で II 1枚の写真からどんなメッセージが聴こえますか？	熱線を浴びて大やけどをした少女の写真。よく観察すると何が見えてくるか？ 被写体の少女が、あなたに訴えたいことは？	原爆は人間にどんなことをもたらしたのかを理解する。論理的・科学的にとらえる。	資料を配布
3	被爆地復興 I 雑草の芽吹きにあなたは感動したことがありますか？	75年間、草木も生えないと言われた被爆地。写真と被災後の年表から、復興の足跡をたどる。廃虚に芽吹いた雑草を被爆者はどう受け止めたか？	被爆した人たちが復興へ立ち上がった原動力は何だったのかを考える。	資料を配布
4	被爆地復興 II 広島平和記念都市建設法と初代公選市長浜井信三氏	「生きる勇氣と希望を広島は与えてくれた」と内戦後のカンボジアから広島アジア大会に出場した選手団が語った。その原点を浜井氏の著書で読み解く。	広島が「平和を象徴する都市」になった足跡を1人の政治家の言動から学ぶ。	資料を配布
5	被爆地復興 III 生き残った者の責任 死者に対する罪の意識	教材は広島平和記念資料館の初代館長長岡吾氏を取り上げたTSSの報道特番「ヒロシマを遺した男」。その生き方からどんなことを学びますか。	被爆地から平和を発信する意義と、継承するうえの課題を整理する。	資料を配布
6	放射線と人間 いまだに解明し尽くされていない人体への影響	昭和20年代に被爆二世の産出にたずさわった助産師さんの証言を読み、原爆は人間にどのような影響を与えたのかを学ぶ。	被爆による人体影響は、なぜ解明し尽くされていないのかを理解する。	資料を配布
7	ゲストスピーカー講話	被爆された方の話を聴く。 ※感想文を提出	被爆後70年。被爆者のメッセージをあなたの生き方に重ね合わせて受け止める。	資料を配布
8	原子力「平和利用」I 日本の原発政策の源流と現状 福島原発事故の教訓	1950年代半ば、米国は広島に原子力発電所を建設しようとした。その意図を探る。併せて、福島事故の現状を学び、「平和利用」について考える。	わが国の原発政策について、あなたの意見をまとめる。	資料を配布
9	原子力「平和利用」II 核のごみ・プルトニウムの問題点	「核のごみ処理」に悩む世界、「夢の燃料」だったプルトニウムが今や「お荷物」。その現実について考える。	原子力発電にどう向きあうかを地球規模で考える。日々の暮らしを見詰め直す。	資料を配布
10	核時代突入 核分裂の発見・第二次大戦終結・冷戦時代の世界	人類は核戦争の危機に何度も直面した。朝鮮戦争、キューバ危機、ベトナム戦争を振り返り、なぜ核兵器の使用をかわらうじて回避できたのかを考察する。	過去の出来事を、私たちが生きている社会・時代に結び付けてとらえる力を高める。	資料を配布
11	冷戦終結 その意義と終結後の国際政治	冷戦終結によって国際社会はどのように変化したのか。核兵器を自ら放棄した国、非核地帯の広がりなどの事例によって理解を深める。	冷戦終結の意義を考える。歴史をその時代を生きた人の気持ちになって学ぶ。	資料を配布
12	アジアの原爆観 旧日本軍による住民虐殺と広島	戦争の「加害」と「被害」を、証言と史料（歴史的文献）によって検証する。旧日本軍が侵略した地域の原爆観を学び、歴史観のミゾを埋める方策を考える。	被爆地が求めてきた「核兵器廃絶」がいまだに実現しない理由についても考える。	資料を配布
13	米国の原爆観 スミソニアン論争から浮かび上がったことは？	米国の博物館が計画した原爆展に退役軍人らが反発し、中止された。当時の新聞記事や文献を教材に使って、日本とは異なる原爆観を検証する。	1人ひとりが「和解の道筋の主人公」になるためにどんなことができるかを見つける。	資料を配布
14	核時代をどう生きるか I 『ヒロシマ 母たちの祈り』	記録映画を鑑賞。「被爆地の役割と課題」「被爆地で学ぶ意義」について意見を深める。	原爆を昔話で終わらせないためにあなたができることを具体的に考える。	資料を配布
15	核時代をどう生きるか II グループ・ディスカッション	前回の皆さんの「記入用紙」を教材にして意見交換。グループごとに発表する。	副題を「命一人間が人間らしく生きるために」とした理由を改めて考える。	資料を配布
16	試験	なし。		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
広島の大中学生として、教育者を志す学生として、子どもたちに事実に基づいて平和を伝える力を磨く。	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の「記入用紙」……………60% (4%×15回。1回1回の授業を大切に！) ゲストスピーカー講話の感想文……………15% 期末レポート……………25% 	<ul style="list-style-type: none"> (a) シラバスを読んだ上で授業を受けてください。 (b) 配布物は持ち帰って必ず読み直そう。授業時には気づかなかった発見がきっとあります。それを次回の「記入用紙」に書いてもらいます。復習に1時間以上必要です。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使いません。

7. その他(履修の要件等)

- (a) 皆さんが書いた「記入用紙」を教材として使ったり、グループ・ディスカッションを随時行ったりして理解を深めてもらいます。積極的に参加して、あなたの力を伸ばしましょう。(b) ニュース連動型とするため皆さんの到達度によって、授業計画を変更することがあります。

8. 学習成果との関連(短大のみ)

知識・理解	技能	態度・志向性	総合的学習・思考力
-------	----	--------	-----------